

四 諸外国との外交関係

1 日米外交関係*

137

昭和11年2月6日

在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

米國対外政策の傾向と我が國が執るべき対米
政策に関する包括的報告について

ワシントン 2月6日発

本 省 3月5日着

郵[※]第一號

往電^{(1)編注}第一五號ニ關シ

一、現大統領就任以來米國ノ國策ハ國內不況ノ克服ニ重點ヲ
置キ從テ對外關係ハ平穩無事ヲ求メ中南米ニ對シテハ所
謂善隣主義ヲ標榜シテ「モンロー」主義ヲ緩和シ「ハイ
チ」ノ撤兵「ブラット」修正ノ廢止等依リテ消極的不干
渉政策ノ實ヲ示シ歐洲ニ向ヒテモ伊「エ」紛争ニ關シ國
内ニハ侵略者反對ノ氣分ナキニアラサルモ大體超然傍觀

自由主義ヲ基調トシテ各國トノ關係ヲ融和シ又以テ自國
ノ繁榮ニ資セシメント志シツツアルモノト觀測シ得ヘシ
ニ海軍會議ニ付テモ米國政府カ華府會議ノ際ノ如ク指導的
立場ヲ執ルコトヲ欲セサリシハ又如上ノ消極的對外政策
ノ現レト觀ルヘク唯飽迄比率主義ヲ其ノ政策トシテ堅持
シ居ルハ世界最大國ナリトノ自負心並ニ矜持、東亞ニ於
ケル日本ノ行動及日本ノ比率不満足ノ態度ニ對スル對抗
的考慮ニ出ツルモノト云フヘシ海軍當局ハ比率維持ハ極
東ニ於ケル門戶開放擁護上必要ナリト公言シ居リ又現ニ
實行中ノ條約量海軍建造計畫モ門戶開放擁護ト失業救
濟ヲ兼ネテ立案セラレタルモノト觀ルヘキモ

若シ門戶開放擁護ナル標語カ日本ノ行動掣肘ヲ意味スル
モノトスレハ窮極ニ於テ果シテ全米國民ノ支持ヲ受ケ得
ヘキヤ餘程疑問ニシテ近來東亞ノ眞狀、帝國ノ決意等漸
次周知セラルルニ伴ヒ當國言論界ニハ若シ米國ニシテ飽
迄東亞ノ事態ニ壓力ヲ加ヘンコトヲ政策トスルニ於テハ
結局日本ト戰ハサルヘカラス果シテ米國ハ夫程ノ利害
關^(係カ)ヲ東亞ニ有シ居レリヤ寧ロ東ヨリ手ヲ引キテ日本ト協
調ノ途ヲ講スル方賢明ニアラスヤトノ議論擡頭シツツア

ノ立場ヲ執リ只管之ニ捲込マレサランコトニ腐心シ恆久
的中立制定ヲ熟慮シ居ルノ狀況ナリ而シテ東洋ニ關シテ
比島ノ獨立法ヲ施行シテ紛争ノ原因ヲ少カラシメンコト
ヲ試ミ最近北支事件等傳ヘラレタル際ニ於テモ條約ノ神
聖等原則的立場ヲ主張シタルコトアルニ止マリ一々具體
的事實ヲ是非スルカ如キ言辭ヲ弄セス徒ニ帝國民心ヲ刺
戟スルカ如キハ其ノ極力回避セント努メ居ル所ナリシコ
ト明カナリ要スルニ廣大富裕ナル領土ヲ擁シ主トシテ國
内問題ノ調整ニ依リ利用原生^(原力)ノ途ヲ講シ得ル米國トシテ
ハ歐洲大戰ニ引摺ラレテ暫ク國外關係ニ進出シ其ノ結果
却テ不利ヲ蒙レル苦シキ經驗ニ鑑ミ寧ロ政治的孤立ニ復
歸スルヲ可トスルノ傾向近次漸ク盛ナラントシツツアル
ハ自然ノ勢ト云フヘシ

此⁽²⁾ノ傾向ハ現政府ニ至リテ益々強化セラレ對外關係ニ於
テ政治的方面ニハ出來得ル限り控目ノ態度ヲ執ルト共ニ
唯經濟方面ニ於テハ自國ノ強大ナル經濟力ニ信賴シ通商

リ法律的純理論ヲ事トシテ日本ヲ飽迄條約違反者ト目シ
來レル一派スラ漸次日本ハ今日之ヲ放任シ追テ天命ニ依
リ沒落スルヲ待ツノ外ナシト云フカ如キ論法ニ向ヒツツ
アリ「カレント、ヒストリー」二月號「タイラー・デンネ
ット」論文等又飽滿國、非飽滿國間ノ資源調和必要ノ
議論モ最近次第ニ現レ一般對日感情ハ滿洲事變當時ニ比
シ著シク緩和シ居ルモノト觀測セラル尤斯ル我ニ有利ナ
ル對日論カ一般輿論トシテ米國民心ヲ支配スルカ如キコ
トハ尙之ヲ遠キニ待ツノ外ナシト云ハサルヘカラス今回
帝國ノ倫敦會議脫退ニ際シ米國輿論カ沈靜ヲ保テルハ日
本ノ態度カ豫テヨリ豫期セラレ居タル所ナルニ加ヘ其ノ
脫退ニ當リ製艦競争ハ其ノ欲スル所ニアラサルコトヲ聲
明シ

又米國側ニテモ差當リ現製艦計畫ヲ變更スル意思無キコ
トヲ公言シ得ル爲一般民衆モ兎モ角兩國共製艦競争ノ回
避ヲ熱望スルモノナルコトヲ感シ得タルコト並ニ前述ノ
如ク一般對日感情カ融和ニ向ヒ居ルニ依ルモノト觀ルヘ
ク尙帝國ノ均等主張ハ大削減ノ合理的前提トシテ必然的
要求ニ過キス帝國モ無脅威無侵略ノ基礎ニ於テ軍縮ノ誠

意ヲ有スルモノナルコト漸ク一部ノ人士ノ間ニ了解セラレントシ居ルコトモ亦輿論平穩ニ與ツテ力アルカ如シ

三、翻テ米國海軍建造計畫ノ將來ヲ考察スルニ其ノ比率主義ヲ堅持シ帝國ニ對シ均等勢力ヲ認メサルノ態度ニ出テ居ルコト前述ノ如クナルモ他國カ建艦競争ニ出テサル限り米國モ條約量ノ限度ヲ越ヘテ建艦セサルヘシトハ海軍當局ノ屢公言シ居ル所ニシテ又米國內ニハ各國カ建艦競争回避ノ共通ノ願望ト自國々力ニ對スル反省等ニ依リ相互ニ自制スルニ於テハ軍縮兩條約ノ廢止後モ左シテ危險ナル自體ヲ招來スルコト無キヲ期待シ得ヘシト爲ス議論相當強キモノアルコト累次報告濟ノ通ナリ

海軍當局トシテハ兩條約廢止後ニ於テモ他國ノ海軍政策ニ著シキ變化ナキ限り現計畫ニ對シ積極的ニ一大變更ヲ加フルコト先ツナカルヘキヤニ考ヘラル要スルニ海軍問題ニ關スル米國政府ノ態度及輿論ノ向背ハ今後帝國ノ東亞ニ於ケル行動及海軍軍備充實ノ態度如何ニ係ル所最大ナリト云フヲ得ヘシ

又太平洋方面ニ於ケル海陸防備施設ノ方面ヲ見ルニ防備制限地域ニ付テハ條約終了ヲ俟テ生起スヘキ問題ニモア

リ倫敦會議モ尙進行中ノ今日未タ米國側ニ於テモ其ノ議熟シ居ラサルヘク何等豫測ノ限りニアラス然レトモ布哇、「アラスカ」ニ於テハ客年公信第四二九號所報ノ如キ防備計畫存シ又「アリユーシヤン」列島航空施設ニ付テハ日本ヨリノ不安ヲ感シ居ル關係米本國ト近接地帶ナル關係航空事業カ現時民衆ノ好奇心ヲ唆ル好對象タル關係等ヨリ熱心ニ之ヲ唱道スル者アルモ斯ル邊僻ノ地ニ於ケル施設ノ必要乃至有效性ニ付反對論モ鮮カラス尙最近實施セラレタル太平洋橫斷航空郵便事業モ其ノ裏面ニ軍事の考慮アルコトハ「ウエーク」其ノ他ノ諸島カ右航空路開通前海軍省ノ所管トセラレタルコトニ依リテモ察シ得ヘシ

而シテ右太平洋方面ニ於ケル米國海軍ノ海陸防備施設全般ニ付テ觀ルニ防禦ノ程度ヲ逸脱シ寧ロ我ニ對スル攻撃準備ヲ爲シ居ルコト明瞭ナリ攻撃ハ防禦ノ最良法ナリトシテ米國海軍當局ハ斯ル方策ニ出テ居ルモノトモ見得ヘキモ此ノ點ニ付テハ今後共銳意注意ヲ怠ラサルヘシ

四、如上ノ如ク米國政府ノ對日政策ハ倫敦會議ニ依リ新事態ニ刺戟セラレ特ニ變更ヲ見ルヘシトハ考ヘラレサルノミ

ナラス今秋ハ大統領選舉ヲ控エ居ルヲ以テ自然國民ノ注意ハ之ニ集中セラレ政府モ對外關係ニ於テハ控勝チノ態度ヲ持續スヘク特別ノ新事態發生セサル限り少クトモ近將來ニ於テ積極的態度ニ出ツルコト無シト觀測シ誤無カルヘシ

然ラハ米國人ノ頭ニ米國カ帝國ニ對シ何等カ新態度ニ出ツルノ必要アリト映スルカ如キ事態如何ヲ想像スルニ夫ハ唯日本カ強大ナル侵略の國家トシテ米國ノ重大利益ヲ脅サントスルカ如キ實感ヲ與ヘタルトキニ限ラルヘシ米國ト雖單ニ感傷(センチメンタル)的動機又ハ道德的優越感ニ依リ冒險ヲ試ミントスルモノニアラス

極東ニ於ケル帝國ノ行動ハ動モスレハ米國ノ利益ト衝突スルノ觀ヲ呈スルモ所謂門戶開放ヲ重大利益ト考ヘサレントスル傾向米國人ノ間ニ漸ク現レツツアルコト前述ノ如シ帝國カ東洋平和ノ樞軸トシテ充分説明ヲ與ヘ得ヘキ合理的行動ニ出テ居ル限り日米關係ヲ重大難局ニ導クノ惧ナキモノト信ス

五、英米ノ合作ニ付テハ英國ハ常ニ之ヲ求メ居レルモ米國ノ消極外交政策兩國國民性上ノ相違等ヨリ觀テ其ノ可能性少

キモノト結論スルヲ得ヘシ但シ何レモ飽滿國トシテ共通ノ利害ヲ有スルヲ以テ日本カ近來自主的の外交ノ傾向ヲ示シ居ル際自ラ感情の二相互接近ノ契機ヲ與ヘ居ルモノト云ハサルヲ得ス然レトモ倫敦會議ノ成行ニ依リ直チニ特定ノ政治的協定乃至了解ヲ試ミ居レリトハ思ハレサルモ此ノ點亦充分ノ注意ヲ怠ラサルヘシ尤兩海軍間ニ何等カ技術的、部分的の談合ヲ爲スカ如キコトハアリ得ヘキコトト想像セラル

六、⁽⁸⁾更ニ進ンテ日米關係整調ノ方策ニ付テハ米國ノ消極外交方針及大統領選舉切迫ノ爲太平洋協定、四國條約補強等ノ政治工作ハ差當リ見込無ク此ノ點ハ若シ民主黨勝ヲ制スルニ於テハ少クトモ當分同様ナルヘシト思考セラル又若シ共和黨ノ勝利トナラハ涉外關係ニ現政府以上ノ關心ヲ拂フノ可能性多ク從テ米國ノ對日^(態度)對度ニモ動搖ヲ覺悟セサルヘカラス然レトモ場合ニ依リテハ或ハ却テ我ニ好都合ノ展開ヲ見ルヤモ測ラレス即チ一昨年春本使着任當時ノ「キヤツスル」等トノ會見ニ關スル電報ニテ申進メタル次第モアリ自ラ太平洋協定等政治工作ノ餘地生スルヤモ知レス又移民法修正ニ付テモ幾分望ヲ囑シ得ヘシ

「スチムソン」ノ政策ハ一般民衆ノ間ニアリテモ實際見解ヲ有スルモノノ支持ヲ失ヒツツアルノミナラス共和黨部内ニ於テモ著シク不人氣ナリ

海軍問題ニ付テハ日本ノ均等要求ハ戦争防止會又ハ「ナイ」上院議員等一部ノ了解支持ヲ受ケ居ルモ尙一般的ニハ過當ノ主張ト考ヘラレ居レリ考フルニ帝國主張ノ弱點ハ萬國普遍的ニ通用シ得ル原則ナルカ如キ感ヲ有シ而モ實際的ニ適用不便ノ點アルコト及「バルネラビリティ」處理方法ノ明確ナラサル點ニアリ是等ハ客年十二月十六日山口武官發海軍次官宛米海機密第一七七號電報又ハ杉村大使發閣下宛客年第一七七號電報中ニ指示セラレタル筋合ニテ戰。闘。價。値。多キ戰艦ト少キ戰艦トヲ分チ(英國「アドミラル、リツチモンド」ハ五千噸巡洋艦以下ハ防護用ニ充分ノ價值アルモ戰闘價值無シト論シ居レリ)之レアルモノヲ均勢又ハ廢止スルコトトシ夫レ以下ヲ比率制限ナリ無制限ナリト爲スカ如キ方式ト爲サハ米國民衆ノ大部分ハ之ヲ納得セシメ得ヘシト信ス然ラスンハ寧ロ端的ニ日本ノ要求ハ日米間ノミノ均勢ナリト提唱スルモ一案ナルヘシ右ハ申ス迄モ無ク海軍當局ノ責任アル研

138

昭和11年2月13日 在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

中立法の修正延長に関する米國上院外交委員 會決議について

ワシントン 2月13日前發
本 省 2月14日前着

第五四號

十三日新聞報道ニ依レハ上院外交委員會ハ本議會中々立政策ニ關スル恒久的法規ノ制定ノ困難ナル形勢ニ鑑ミ十二日現行決議ニ

(イ)交戰國ニ對スル商業上ノ信用以外ノ借款ヲ禁止スルコト
(ロ)右決議カ米大陸諸國ト米大陸外ノ諸國トノ間ニ於ケル戰爭ニ適用ナキコト

(欄外記入)
(イ)大統領ノ武器禁輸ノ義務ヲ戰爭勃發ノ場合ノミニ限ラス
右カ第三國ニ波及シタル場合ニモ及ホスコト

ノ三點ノ修正ヲ加ヘ更ニ一九三七年五月一日迄延長スヘキ
コトヲ決議シタル由ナリ
紐育ニ郵送セリ

究ニ俟ツヘキ重大問題ナルモ米國輿論ヲ目標トシテノ考察御參考迄ニ一言ス

之ヲ要スルニ日米關係ニ於テハ目下通商上ノ部分的問題隨時生起シ來ルノミニシテ當面ノ處理ヲ要スル政治的紛爭案件無ク國民的感情トシテモ双方ニ少數ノ極端論者アルモ大体ニ於テ相互ニ了解ヲ増シ平穩無事ヲ希望シ居ルモノト云フヘク從テ此ノ際帝國ノ執ルヘキ對米方策トシテハ飽迄事態ノ推移ニ對スル注意ヲ怠ラス一方東亞ニ於ケル帝國ノ眞目的ヲ宣明シ米國輿論ヲシテ東亞放任ノ決意ニ向ハシメンコトニ努力スルト同時ニ他方小案件乍ラ領事職務條約ノ如キ成ルヘク速ニ成立セシメテ協調ノ實ヲ示シ又文化宣傳ニモ力ヲ注キ徐ニ積極的工作ノ好機ヲ待ツコト然ルヘシト存ス

編注一 本電報は分割して發電されたが、第六番目の分割を示す番号が脱落している。

二 『日本外交文書 一九三五年ロンドン海軍會議』第333文書。

(欄外記入)

東亞問題トハ如何ナル關係アリヤ

139

昭和11年2月16日 在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

米國大統領による特別汎米會議開催の提議に ついて

ワシントン 2月16日後發
本 省 2月17日後着

第六〇號

當地各新聞ハ數日前ヨリ大統領「ルーズベルト」カ米大陸各國ノ元首ニ對シ西半球ニ於ケル平和確立ノ方法研究ノ爲臨時汎米會議開催方ヲ提議シタル旨報シ居タル處十五日右ニ關シ大統領ヨリ亞爾然丁大統領宛發送セル親書公表セラレタルカ要旨左ノ通

余ハ「チャコ」紛争ノ終了ニ依ル平和ノ克復カ米大陸諸國ニ絶好ナル機會ヲ與ヘタルモノト思考スルカ故ニ米大陸諸國ハ今後米共和國相互間ニ於ケル敵對行爲ノ發生又ハ繼續ヲ不可能ナラシムヘキ共同ノ責任及必要ヲ攻究シ以テ實際

的方法ニ依リ西半球ニ於ケル恒久的平和確立ノ目的ニ貢獻スヘキ好機至レルコトヲ確信ス余ハ米大陸諸國カ「ブエノスアイレス」又ハ其ノ他ノ首府ニ於テ臨時汎米會議ヲ開催シ米共和國間ニ於ケル平和確保ノ最良方法如何即チ一切ノ現存汎米平和諸條約ノ批准ニ依ルヘキヤ其ノ後ノ經驗ヲ基礎トスル右諸條約ノ改正ニ依ルヘキヤ又ハ新タナル平和條約ノ締結ニ依ルヘキヤヲ決定センコトヲ提議セントスルモノニシテ各國政府ハ敍上ノ理由ニ基キ右ニ好意的考慮ヲ加フルモノト思考ス右ハ更ニ國際聯盟其ノ他ノ平和機關ノ努力ヲ補正強化スヘキニ依リ延イテハ世界平和ヲ促進スルモノナリ余ハ本問題カ米大陸諸國ニ對シ緊切ナル利害關係ヲ有シ各國元首ノ個人的意見交換ヲ必要トスルモノト思考スルニ依リ通常ノ外交機關ヲ經ルコトナク親シク閣下ニ通達セントスルモノナリ云々

紐育ニ郵送セリ

140

昭和11年3月1日

在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

中立法延長に関する米國大統領の裁可と声明

付記 決裁日不明、亜米利加局第一課提案高裁案

「在米領事會議開催ニ關スル件」

ワシントン 3月17日後発

本 省 3月18日後着

第一〇三號

全米領事會議ハ昭和四年以來開催ノ機會ナクシテ今日ニ及ヒタル處右ハ各館相互ノ事務ノ聯絡及統一上甚タ有益ナルノミナラス海軍會議退後ノ國際關係ノ調整通商上ノ諸問題ノ研究其ノ他各般ノ問題ニ付テモ此ノ際現地ノ事情ヲ徴シ意見ノ交換乃至打合ヲ爲スコト必要ナルニ付テハ大体五月上旬事務ノ繁閑ヲ見計ヒ約一週間ノ豫定ヲ以テ當地ニ右會議ヲ開催致度ク至急御許可ヲ請フ

全米各領事へ暗送セリ

(付記)

高裁案

在米領事會議開催ニ關スル件

大正十一年九月桑港ニ於テ在米太平洋沿岸領事會議開催以後大正十三年八月及昭和三年三月ノ二回ニ亘リ何レモ同地

について

ワシントン 3月1日後発
本 省 3月2日前着

第七八號

往電第六四號ニ關シ

二月二十九日大統領ハ現行中立決議延長法案ヲ裁可スルト共ニ客年十月五日ノ布告ト略同趣旨ノ布告ヲ發シ直ニ伊「エ」兩國ニ適用スルノ措置ヲ執リタルカ尙右ノ外客年十月五日以後本件ニ關シ大統領及國務長官ニ依リ屢聲明セラレタル政策ハ引續キ持續セラルヘク新法律ハ所謂戰爭遂行ニ必要ナル材料ノ輸出禁止ヲ規定シ居ラサルモ右品目ノ平時取引額以上ノ輸出ハ戰爭ヲ延長スルコトナルヘキヲ以テ當業者ハ右限度ヲ超ヘサル様留意センコトヲ切望スル趣旨ノ聲明ヲ發シタリ

英、佛、伊、紐育ニ郵送セリ

141

昭和11年3月17日

在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

在米領事會議開催の許可方要請について

ニ於テ沿岸領事會議開催セラレ越テ昭和四年四月華府ニ於テ在米各領事參加ノ領事會議開カレ日米間ノ當面ノ諸問題其他ニ關スル事務打合ヲ爲シ何レモ尠ナカラサル效果ヲ收メタル次第ナル處今般在米齋藤大使ヨリ別紙寫^(附送)ノ通全米領事會議開催方稟請越セリ

然ルニ最近ノ時局ニ顧ミ日米關係殊ニ兩國間ノ通商關係ノ調整在米邦人問題對策其他本邦文化ノ紹介啓發等當面ノ諸問題ニ關シ在米大使及各領事間ニ於テ事務上ノ打合ヲ爲シ之カ聯絡及統制ヲ期スルコト極メテ緊要ト認メラルルニ就テハ此際華府ニ於テ四日間ノ豫定ヲ以テ在米領事會議ヲ開催スルコトト致度

尙全米巡閱使ハ本年六月中旬頃華府到着ノ豫定ナルニ付右領事會議ハ巡閱使華府滞在ノ頃ニ開催ノコトト致度

右仰高裁

142

昭和11年4月13日

有田外務大臣より
在米國齋藤大使宛

移民法上の「商人」に関する米國政府の詳細な
解釈につき調査方訓令

米三普通第七三號

昭和拾壹年四月拾參日

外務大臣 有田 八郎

在米國

特命全權大使 齋藤 博殿

米國移民法上ノ條約商人ニ關スル解釋ノ件

一九二四年米國移民法實施前ニ適法ニ入米シタル邦人移民ニシテ一時歸朝ノ後再ヒ米國ニ渡航スル者ハ離米前米國政府ノ發給セル所謂「リターン、パーミット」(正確ニ言ヘハ「パーミット、ツ」、リエンター)ニ依リテ再入國ヲ許可セラレ帝國政府ノ下付セル旅券ノ攜帶ヲ必要トセサルモノナル處近來是等再渡航者中ニハ自身日米兩國間ノ通商ニ從事セルノ事實殆ント無之ニ拘ラス其ノ米國ニ於ケル現在ノ地位カ商人タルノ故ヲ以テ再渡航ニ際シ移民法上ノ條約商人(非移民)トシテ渡米致度趣ヲ以テ右目的ニ依ル旅券下付方ヲ出願スル者往々有之次第ナルカ米國政府ニ於テ現行移民法第三條第六項ヲ修正シ條約商人ヲ國際商人ニ限定スルニ至レル次第ハ昭和七年七月二十一日附公第四〇四號^(編註)及同年八月三十日附公第四三九號貴信ニ依リ承知シ居レルモ

本信寫送付先

在米各總領事(「ホノルル」ヲ含ム)及領事

編 注 『日本外交文書』昭和期Ⅱ第二部第一卷第384文書。

143

昭和11年4月30日 有田外務大臣より
在米國齋藤大使宛

在米領事會議に対する諮問事項送付について

米一機密第九六號

昭和拾壹年四月三十日

外務大臣 有田 八郎

在米國

特命全權大使 齋藤 博殿

在米領事會議諮問事項送付ノ件

本年六月開催ノ在米領事會議ニ對スル本省諮問事項別紙ノ通り送付ス委曲右ニテ御承知ノ上同會議ニ於テ篤ト審議ノ上結果報告相成度

本信寫送付先

在ホノルル、桑港、紐育各總領事

各具體的の案件ノ發生ニ當リ我方ニ於テ出願人ニ對シ條約商人トシテノ旅券ヲ發給シ差支ナキヤ否ヤニ關シテハ貴方ヨリ御送付ノ資料(例ヘハ國務省發行ノ“Admission of aliens into the United States”ノ如キモノ)ヲ涉獵スルモ猶且判斷ニ苦シム場合モ有之處本省トシテハ前記ノ如キ出願ヲ審査スルニ當リ尠クトモ(1)條約商人ト認ムヘキモノナルコト明カナル場合(2)條約商人ト認ムヘキヤ否ヤハ各案件ノ「メリット」ニ依リテ決定セラルル場合及(3)條約商人ト認メ得サルコト明カナル場合ノ三種ニ分チテ考慮シ得ルノ基準ヲ承知シ置クニ於テハ執務上不尠參考ナル様思料セラルルニ付條約商人ニ關スル米國政府側ノ詳細ナル解釋(例ヘハ在米本邦商人ニシテ條約商人タランカ爲ニハ自己ノ名ニ於テ或種ノ商品ヲ日本ヨリ米國ヘ輸入シ又ハ米國ヨリ日本ヘ輸出シ居レル場合ニ右ノ輸入又ハ輸出ハ「レギュラー」ナルヲ要スルヤ將又「イレギュラー」ニテ差支ナキヤ尙又前記輸入又ハ輸出ハ各其ノ數量又ハ金額ニ於テ一定ノ最低限度ヲ存スルモノナリヤ等ノ點ヲ含ム)等有之ニ於テハ右政府當局其ノ他適當ノ向ニ就キ可然御取調ノ上結果何分ノ儀御回報相成度此段申進ス

在シヤトル、ポートルランド、ロスアンゼルス、シカ

ゴ、ニューヨークレアンズ各領事

(別 紙)

在米領事會議諮問事項

一、排日對策及對米啓發關係

(一)米國排日移民法是正ニ關スル具體的對策

米國排日移民法ノ是正ニ關シテハ帝國政府ハ從來米國側ノ反省ヲ促シ之ニ依リ日米間多年ノ懸案解決ノ氣運釀成ヲ庶幾シ來リタル處本邦人ニ對スル差別待遇ノ除斥ニ付テハ我方ヨリ進ンテ排日法是正方ニ關シ米國人側ト聯絡ヲ保持シ或ハ機ニ應シテ排日派ニモ働キ掛クルコト必要ナリト認メラル就テハ右ニ關スル對策ノ現狀竝ニ將來ニ於ケル具體案ヲ審議ノ上報告相成度

(二)對日感情ノ現況及對策

日米關係改善ノ爲各般ノ關係ヨリスルモ米國民一般ノ對日感情ノ現狀ヲ注視シ之ニ對スル方策ヲ研究スルノ重要ナルハ論ヲ俟タサル次第ナルニ付各地ニ於ケル對日感情ノ推移竝ニ之ニ對スル方策ニ關シ審議ノ上報告相成度

(三) 地方輿論ノ指導啓發上竝ニ排日對策ノ一トシテ各地日本人會及類似團體ノ内容ヲ充實セシムヘキ具体案

日本人問題ニ關シ地方的輿論ヲ指導シ對日理解ヲ増進セシムルコトノ肝要ナルハ勿論ニシテ之カ爲ニハ各地ニ於ケル邦人團體殊ニ日本人會ヲシテ充分ナル活動ヲ爲サシムルコト適當ナリト認メラルル處各地日本人會共財政的ニモ社會的ニモ内容貧弱ニシテ我對米啓發ノ一部ヲ擔當セシムルニ足ラサル傾アル處之カ改善ヲ計リ内容ヲ充實セシムヘキ方策アリヤ具体案ヲ考究立案ノ上報告相成度

(四) 日米協會等米人團體ヲ指導シテ啓發事業ノ效果ヲ擧クヘキ具体的方法

各地ニ於ケル日本協會等ハ各其地方ニ於ケル米人中國國際問題殊ニ日本ニ對スル興味ヲ有スル人士ニヨリ主トシテ組織セラレ居ルモノニシテ我對米啓發施設上其ノ存在ヲ考慮シ之ヲ指導利用シテ米人一般ノ對日關心竝ニ理解ノ増進ニ資セシムヘキモノト認メラルルモ現在ニ於テハ會員ノ素質ニ於テモ經營ノ方法ニ於テモ必スシモ充分ナラサルヤニ認メラルル處右日米協會等ノ活動ノ現狀及之カ改善ニ關スル具体的方法ヲ審議ノ上報告相成度

續ニ依ル時ハ中間ニ於テ時間ヲ要スルコト多ク新聞記事トシテハ往々舊聞ニ屬スル嫌アリ成績思ハシカラサルニ依リ昭和九年八月所謂「特情」制度ヲ創始セリ。即チ新聞聯合社特派員ノ駐在地ニ於ケル新聞論調ハ同記者ヲシテ東京本社ニ打電シ本社之ヲ發表スルト共ニ外務省ニ送付セシメ居ルカ(本省ニ於ケル取扱ハ他ノ公電ト何等差異ナシ)新聞發表上ノ成績ハ從前ニ比シ幾分ノ進歩ヲ示スモ未タ良好ト云フヲ得サル狀態ナリ

右ハ本邦新聞力論調記事ヲ好マサルニ因ルコト主要原因ナルヘキモ電文ノ形式技巧(長キニ失スルトノ説アリ)ニモ亦原因スルヤニ思考セラル。然レトモ「特情」ハ本來本省ニ對スル報告ニシテ新聞發表ノ手續ト電信料節約トノ見地ヨリ先ツ「新聞電報」ニ依リ同盟ニ宛テシムル譯ナルカ報告ト新聞原稿タル右二面ノ作用ハ必スシモ兩立セサルヤニ認メラル。就テハ本「特情」制度ノ運用及改善ニ付何等意見アラバ承知致シタシ尤モ現在在米公館ニ於テ本制度ヲ實行シ居ルモノハ紐育一館ナルモ何レ華府ニテモ開始ノ予定ナルカ(行々ハ桑港ニモ擴張ノ意向)其ノ場合ニ於ケル紐育華府ノ所管區分ヲ如何ニスヘキヤ右

(五) 米國ニ於ケル輿論啓發ニ當ルヘキ本邦關係ノ新聞記者雜

誌記者著作家講演家等ヲ指導シ米國人ヲシテ本邦事情乃至我國ノ立場ヲ正解セシムルコトハ今後益々必要トナルヘキ處現在此方面ニ働キ居ルモノハ漸次減少ノ趨勢ニアリ此ノ際少壯有爲ノ者ニシテ此ノ種啓發方面關係者トシテ將來見込アル者ニ付テハ今ノ内ヨリ其心組ニテ指導シ置ク事適當ナルヤニ見受ケラル就而本件ニ關シ各館持合セノ情報ヲ交換シ指導方針等御協議ノ上結果報告相成度

(六) 其ノ他地方的輿論ノ指導啓發策ニ關シ參考トナルヘキ事項

以上ノ外地方的輿論ノ指導啓發ニ關シ參考トナルヘキ事項、例之啓發關係ヨリ見テ米國ヲ地域的ニ東部、中部、並西部ノ三區域ニ分割シ東部ハ大使館若クハ紐育總領事館ニ於テ、中部ハ市俄古領事館、西部ハ桑港總領事館ニ於テ之ヲ總括スルノ可否其ノ他ニ付研究ノ上報告相成度

(七) 「特情」電信制度ノ運用及改善ニ關スル意見ヲ需ム

外國諸新聞ノ論調ニ關スル在外公館來電ニシテ新聞ニ發表方望マシキモノハ從來本省ニ於テ新聞聯合(同盟通信)ニ提供シ同社入電ノ形式ニテ發表セシメ居タルカ右ノ手

併セテ承知シタシ

三、在留邦人保護指導關係

(一) 在米邦語學校改善ニ關スル具体案

日系米國市民ニ對スル邦語教育ノ必要ハ既ニ定説トナリ居ル處在米邦語學校ノ現狀ニ付テハ多々改善ヲ要スヘキ點アリト認メラルルニ付邦語學校ノ經營、教授ニ關スル現狀ト之カ改善ニ關スル具体策(例ヘハ之等在米邦語學校ニ政府トシテ間接ニ補助金ヲ與ヘテ助成スルノ要アリトセハ右ニ關スル具体案或ハ教員素質ノ改善ニ關シ採ルヘキ具体案)等討議研究ノ上報告相成度

(二) 在米邦人(第二世ヲ含ム)ノ社會的地位ノ向上施設ニ關スル具体案

在米邦人ノ社會的地位ノ向上ノ問題ハ在米邦人關係諸問題ノ解決ニ極メテ重要ナル關係ヲ有スト認メラルルノミナラス近時一方ニ於テ第二世ノ成長ニ伴フ其ノ社會的進出難例ヘハ就職上ノ困難、結婚難等ノ問題アリ他方在米邦人中ニ老癯困窮者ノ數漸次増加ヲ見ルアリ之等ノ社會問題ニ關シ領事館トシテ採ルヘキ對策例ヘハ第二世團體ニ對スル指導或ハ社會事業團體ノ助成等ニ關スル施設ノ

具体案研究ノ上報告相成度

三、通商貿易関係

(一) 日米通商関係ノ調整ニ關スル對策

日米貿易ハ日本側ノ極端ナル入超ナルニ不拘米國ハ最近ニ於ケル本邦品ノ安價ナルコト若クハ輸入激増ヲ理由トシ個々ノ品目ニ付頻リニ關稅引上ヲ行ヒ若クハ關稅引上ノ威嚇ニ依リ我方ノ輸出自制ヲ迫リ來ルニ依リ我方ハ其都度米國側ノ言分ヲ反駁シ折衝之努メ居ルモ何分交渉品目多數ナルト米國側關稅引上運動ハ多分ニ政治的色彩ヲ帶ヒ國務省ハ上下兩院方面ヨリ壓迫ヲ受ル爲必スシモ我方ノ意ノ如クナラサルハ遺憾ナルガ右ニ付何等有効ナル調整ノ方法ナキヤニ付討議研究ノ上報告相成度

(二) 日米通商ニ關スル啓發事項

米國一部ノ團體及新聞等ハ日本品ノ競争ニ付根據ナキ記事ヲ掲ケテ輿論ヲ刺戟スル向アルノミナラズ一般大衆及業者中ニハ本邦カ米綿其他米國產物ノ一、大顧客ニシテ且日米貿易カ本邦ノ非常ナル入超トナリ居ルノ事實ヲ知ラスシテ徒ニ本邦品ヲ敵視スルノ傾向アリ右ハ惹テ本邦品ニ對スル關稅引上運動ヲモ容易ニ誘發スル次第ナルニ付

審議ノ上報告相成度

五、事務聯絡關係

(一) 在米公館及本省間並ニ在米各公館間ノ執務聯絡上改善ヲ要スト認メラルル事項

排日對策對米啓發在留民保護指導通商事務關係其他各般ノ事項ニ關シ在米公館ノ執務聯絡上改善ヲ要スヘキ事項ヲ研究審議ノ上具報相成ト共ニ右ニ關シ本省ニ對スル希望事項アラハ報告相成度

六、日米領事職務條約關係

日米領事職務條約ニ關シテハ別ニ訓令ノ通我方ノ提案並ニ説明書ニ付審議ノ上特ニ意見又ハ希望等アラハ至急電報相成度

七、文化事業關係

(一) 北米合衆國ニ於テハ近時本邦文化研究熱頓ニ旺盛ナラントシツアル處本邦事情紹介ノ方法トシテハ學者、學生ノ交換、派遣、招聘、圖書其他文化資料ノ寄贈配布、展覽會ノ開催、映畫ノ展覽、音樂舞蹈ノ紹介、「スポーツ」選手ノ派遣等多々アル可キ處對北米合衆國文化工作ノ中心地選定ノ可否、各地方ノ特殊性ニ應シ孰レノ方法ニ據

之カ有効阻止ノ對策ニ付討議研究ノ上報告相成度

四、旅券事務關係

(一) 米國本土及布哇行布教師ノ渡航取締

千九百二十四年米國移民法ニ依レハ二ヶ年以上布教師ノ職ニ在リタル者ノ入米ハ自由ナル爲佛教、天理教其他ノ布教師ノ米國本土及布哇ニ渡航スル者ノ數少ナカラサル處(別紙統計表甲乙兩號參照)今後此ノ事態ヲ其ノ儘放任スルニ於テハ在留民指導上支障ヲ生スルノ虞アル趣ヲ以テ曩ニ在「ホノルル」總領事ヨリ昭和十年一月九日附機密第二一號ヲ以テ本省宛稟申(右機密信ハ在米大使及在桑港、羅府、シアトル、ポートランドノ各總領事領事ヘ寫送付濟)ノ次第アリタル處右ハ獨リ布哇ノミノ問題ニ止マラスシテ米本土ニ於テモ略同様ナルヘシト思考セラレ從テ假令布哇行布教師ニ對シテノミ或種ノ取締ヲ行フトスルモ若シ米本土行布教師ニ對シテ同様取締ノ途ヲ講セサルニ於テハ米本土ヨリ自由ニ布哇ニ轉航スヘキハ勿論米本土自体ニ於ケル形勢ヲモ惡化セシムルニ至ルコトアルヘキニ付右ニ關スル各館ノ實情ニ鑑ミ果シテ本件取締ヲ必要トスルニ於テハ之カ具體的理由並ニ取締方法等

ルヲ有効適切ナリトスルヤ等ニ關シ協議報告相成度シ

(二) 北米合衆國諸大學ニ主トシテ米國人ニ對スル日本語教授機關及日本文化講座設置ニ關スル意見報告相成度シ

(三) 本省及國際文化振興會ニ於テ從來行ヒ來レル對米文化工作ノ成果及反響等報告相成度シ

(四) 日米外交關係ヨリ觀タル我方ノ對米文化宣傳事業ノ意義並ニ效果等ニ關スル所見報告相成度シ

144 昭和11年5月21日 有田外務大臣より
在米國齋藤大使宛

特別汎米會議の議題としてペルー政府より提出された国籍問題についての事情調査および
成行き監視方訓令

米二機密第一一七號

昭和拾壹年五月二十壹日

外務大臣 有田 八郎

在米國

特命全權大使 齋藤 博殿

汎米會議開催ニ關スル件

本件ニ關シ五月上旬在祕村上公使ヨリ來電(貴官宛同公使ヨリ轉報濟)ニ依レハ今次汎米會議ニ祕露政府ヨリ提出ニ係ル議題中「國籍問題ニ付見解ト立法ノ統一」ナル一項有之趣ナル處其内容如何ニ依リテハ本邦人ノ米大陸進出上重大ナル影響ヲ及ホス虞アリト思料セラル、ニ付貴地ニ於テモ本件提案ノ事情ヲ御調査相成其ノ成行監視ノ上隨時御報告相成度此段申進ス

本信寫送付先 在祕公使

145

昭和11年5月28日

在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛

移民法上の「商人」の解釈につき政府の一定基

準を明示することは甚だ困難との米國労働省

当局者の見解について

普通公第三九一號

(7月4日接受)

昭和十一年五月二十八日

在米

特命全權大使 齋藤 博(印)

外務大臣 有田 八郎殿

「リエントリ、パーミット」携帯ノ再渡航者ニシテ日本政府ニ對シ條約商人トシテノ旅券下附方ヲ出願スルモノノ如キハ米國政府トシテハ特ニ豫期シ居ラサル所ニシテ斯ル資格ヲ有スル日本人「パーマネント、レジデント」ハ其歸國前米國政府ニ「リエントリ、パーミット」ノ下附申請ヲ爲スト同時ニ條約商人トシテノ資格證明書ノ下附ヲ出願スレハ(米國出帆豫定日ヨリ六十日前ナルコトヲ要ス)法定ノ條件ヲ具備スル限り右資格ヲ認メラルヘク從テ日本政府トシテモ米國政府ヨリ下附セラレタル斯ル證明書ヲ携帯スル者ニ限り條約商人トシテノ旅券ヲ下附セラルコトトセハ問題ハ至極簡單ニ解決スヘシ等述ヘ居タル趣ナリ右同報旁御參考迄申進ス

記

米國移民法上ノ條約商人ニ關スル米國政府側ノ解釋(法規ニ基キ當館ニ於テ取調ヘタル所ニ付前記「クツク」及移民資格審査委員ノ意見ヲ確メタルモノ)
「北米合衆國ニ於テ「パーマネント、レジデント」トシテ認メラレタル邦人ニシテ一九三二年七月六日以前ヨリ引續キ國內商業或ハ國際(米國及諸外國間)商業ノ何レカ一

米國移民法上ノ條約商人ニ關スル解釋ノ件

本件ニ關シ四月十三日附米三普通第七三號貴信ヲ以テ御來示ノ趣敬承仍テ當館顧問辯護士「アーサー、クツク」トモ協議ノ上適當ナル質問條項ヲ列記シタル國務省宛公文案ヲ作成シ之ヲ先ツ「クツク」ヲシテ同人ト昵懇ナル勞働省移民局移民資格審査委員ノ一人ニ内示シ其ノ意見ヲ求メシメタル處同人ノ意見ニテハ邦人移民ノ條約商人トシテノ資格ヲ査定スルニ當リテハ原則トシテ左記ノ各條項ニ適合スルヲ緊要トスルモ移民資格審査委員ノ裁量ニ依リテハ右條項記載以外ノ事項(例ハ信用、評判等)ニ亘リテモ取調ヘタル上資格ヲ決定スル場合モアリ即チ個々ノ「ケース」ニ付實情ヲ審査シ其ノ資格決定ニ或ル程度迄個人ノ特殊ノ事情ヲ考慮シ寬嚴ヲ加フルコトモアリ得ル次第ニテ旁々條約商人ノ解釋ニ關スル米國政府ノ一定基準ヲ明示スルコトハ甚タ困難ナル事情アリ從テ前記公文ヲ國務省ニ提出スルモ國務省ヨリ之ヲ勞働省ニ廻付シ回答案ヲ求メラレタル場合勞働省トシテハ現行法律ノ定ムル所ニ依リ總テ之ヲ律スヘキ旨ヲ述ヘ現行移民法規ヲ「リファア」スルヨリ外方法ナシト思考スル旨述ヘタル趣ナリ又其際同人ハ貴信御來示ノ如キ

方或ハ双方ニ「レギユラー」ニ從事シ居ルモノハ條約商人タルノ資格ヲ認メラル、其ノ收入、取引額、資本金額ニハ一定ノ基準ナキモ資格審査ノ參考トス
ニ、北米合衆國ニ於テ「パーマネント、レジデント」ト認メラレ居ル邦人ニシテ一九三二年七月六日以後始メテ商業ヲ開始セルモノ及右時期以後條約商人トシテ新ニ入米セル邦人ハ日本及合衆國間ノ輸出入貿易ニ「レギユラー」ニ從事シ居ルモノニ限り條約商人タルノ資格ヲ認メラル
三、以上何レノ場合ト雖モ條約商人タルカ爲メニハ移民法第三條ノ(六)ニ所謂「Solely to carry on trade」ノ條項ニ該當スルヲ要ス右ハ即當該商人カ其ノ全部ノ時間ヲ該商業ノ爲ニ費スコトヲ必須條件トスルモノナリ
四、尤モ當該商人カ個人ニテ商業ヲ經營シ居ル場合ト條約上ノ商業ヲ營ミツツアル日本商社ノ代表者若クハ雇傭人タル場合トニハ前記必須條件以外ノ資格審査上ノ基準ニ付テ自ラ異ルモノアルヲ免レス即チ前者ニアリテハ其ノ取引商カ果シテ當該商人ニ於テ其ノ全部ノ時間ヲ費シテ之ニ從事スルノ價值アル程度ノモノナリヤ否ヤヲ考慮ニ容レラルコトアルヘシ又最初ヨリ利潤ヲ目的トセス單ニ

新商路ノ開拓ヲ目的トスル者モアルヘキ處右ニ對シテハ特別ノ考慮ヲ拂ハルコトアリ得ヘシ尙一般ニハ條約商人タル以上其ノ米國ニ於ケル純收入最低年額一千八百弗(月額百五十弗)アルヲ豫期セラル但シ經營失敗ノ爲メ却テ損失ヲ招キタル場合ト雖モ直チニ之ヲ以テ善意ノ商人ニ非ストナサルコトナシ若シ又新規事業ナル爲メ最初ニ於テハ損失ヲ見越シ居ル等ノ場合ニハ收入ノ代リニ其資本金額ヲ考慮ニ容レラルコトアルヘシ

其日本商社ノ代表者若クハ雇傭人タル場合ニハ右商社ノ營業性質及信用並ニ善意ノ雇傭關係ニアリヤ否ヤヲ考慮セラルモノトス而シテ後者ニ付テハ米國ニ派遣セラレタル被傭人ノ給與報酬モ或程度迄參考トシテ考慮セラル若シ該商社カ著名ナル大商社ナル場合ハ給與報酬ハ資格審査ノ重要ナル要素トハセラレサルモ該商社ニ於テ當該被傭人ニ對シ充分ノ待遇ヲ與ヘ居リ且歸國ノ際ノ費用ヲ保證シ居ルコトヲ充分ニ示スコト必要ナリ

本信寫送付先 在米各總領事及各領事(含ホノルル)

報告濟ノモノモアリ又然ラサルモノハ歸任後夫々報告ヲ提出スルコトニ申合セタルニ付御含ミ置アリタシ

追而本答申ノ各項ニ關シテハ本省ニ於テ直ニ之ヲ採用シ實行スルコト困難トセラルモノアルヤモ計ラレサルモ少クトモ右ニ對スル本省ノ御意向丈ハ出來得ル限り速ニ御同示相成ラハ各領事今後ノ執務上ノ心得トシテ甚タ有益ナルヘシト存スルニ付右併セテ申進ス

本信寫送付先 在米各總領事及各領事、在紐育商務官
在加公使及在晚香坡領事

(別 添)

一、排日對策及對米啓發關係

(一)米國排日移民法是正ニ關スル具體的對策

移民法問題ノ根源地タル加州ノ狀況ヲ概觀スルニ從來ヨリ同法修正ニ努力シ來レル「アレキザンダー」「ヒューム」等ノ東洋問題協議會ハ最近諸般ノ情勢カ修正運動促進ニ便ナラサルト、今秋大統領ノ選舉ヲ控ヘ政治的問題ニ多忙ナル爲メ一時運動休止ノ狀態ニ在リ、他方反對派タル「マクラッチ」等一派ノ合同移民委

146

昭和11年6月16日 在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛

在米領事會議諮問事項に対する答申の送付に

ついて

機密公第四〇三號

(7月14日接受)

昭和十一年六月十六日

在米

特命全權大使 齋藤 博(印)

外務大臣 有田 八郎殿

領事會議諮問事項答申ニ關スル件

四月三十日附米一機密第九六號貴信ヲ以テ御送付相成タル諮問事項ニ對スル領事會議ノ一致セル意見別添ノ通り答申ス

尙答申ニ於テハ會議ニ於ケル全員一致ノ意見ヲ採録セル次第ナル處右以外各領事ノ披露セル意見乃至希望等モ有之右ハ一括同會議議事録ニ記載シアルニ付御參照相成度シ將又諮問事項中各地ノ現狀ヲ報告方訓令セラレ居ルモノ二、三有之右ハ主トシテ會議期日短カカリシ關係上充分ニ報告説明等ヲナス暇ナカリシ處其ノ中ニハ既ニ各領事ヨリ現況ヲ

員會ハ依然トシテ監視ノ態度ヲ怠ラス苟モ修正運動ノ氣配起ラハ直ニ反撃ヲ加ヘントスル有様ナリ

飜テ惟フニ米國國內ニ於ケル排日移民法修正運動ハ主トシテ日本ト貿易關係ヲ有スル商業團體、國際正義觀念ニ基ク基督教會關係者、大學教授等カ其ノ中心ヲナシ反對派ハ「フエデレーシヨン、オブ、レーバー」、「アメリカン、レジヨン」等ノ勞働諸團體乃至保守的團體ヲ背後ニ有スル次第ナルカ後者ハ各州及聯邦議會ノ議員等ニ對スル選舉ト緊密ナル關係アリ其ノ勢力強大ニシテ右ハ勞働者投票ノ多數ナル加州ニ於テ殊ニ然リ從テ此等ノ方面カ動カサル限り實際上修正問題ノ實現ハ困難ナルカ右ノ事情ハ同州ノミナラス沿岸一帯ニ於テモ同様ナリト認メラル

然ルニ最近我方ノ極東ニ於ケル政策ハ米國一般ニ對シ多大ノ不安ヲ與ヘ一部ニハ恐日の空氣サヘ醸成セラレツツアル情勢ニ付此際我方ヨリ進ンテ米國政府ニ對シ移民法修正問題ヲ提議スルカ如キハ未タ其ノ時機ヲ得タルモノト云フヲ得サルヘシ、固ヨリ本法ノ如キハ能フ限り速ニ修正セラルヘキモノニシテ出先ニ於テモ之

ニ努力スヘキハ當然ナルカ右目的達成ノ爲メニハ充分ナル決心ト用意及準備トヲ以テ之ニ當ラサルヘカラス即チ先ツ出來得ル限り基礎の準備ヲ整ヘ置クコト肝要ニシテ之ニハ前記加州東洋問題協議會、各地商業會議所、教會、大學等ヲ通シテ修正ノ氣運ヲ醸成セシムルノミナラス更ニ反對派ノ根源タル勞働並保守團體乃至議員方面ニモ働キ掛ケ彼等ヲシテ眞ニ修正ノ必要ナルコトヲ感得セシムルヲ要ス、右ハ固ヨリ一朝一夕ノコトニ非サルモ目下ノ狀態ニテハ斯ル意味ノ基礎工事ノ完成ニ努メ他日適當ノ機會ヲ捕ヘ帝國政府トシテ公然且積極的ニ運動ヲナシ得ル素地ヲ作り置クコト可然尤モ米國識者間ニハ本法ノ如キハ大國タル日本ヲ侮蔑スル惡法ナルコトヲ知り引目ヲ感シ居ル者モ相當アル次第ナルカ此ノ點ハ出先ニ於テモ機會アル毎ニ一般ニ徹底セシムル様適當ノ方法ヲトルコトハ廳テ事態ヲ我方ニ有利ニ導ク動因トモナリ有效ナル措置ト認ム

(二) 對日感情ノ現況及對策

關係各地領事ノ報告ヲ綜合スルニ最近第一世ノ數著シク減少シタルコト排日法規ハ既ニ規定事項多岐細密ニ

實行方法トシテハ領事館側ニ於テカメテ各地ノ「ロータリー」「キワニス」「ライオンズ」等ノ諸俱樂部其他大學等米人團體ノ招請ニ應ジ講演ヲ試ムル外各地日米人親睦ノ催シニモ出席スルコト可然、從テ右ニ關シ各領事ヨリ本省宛豫メ出張旅費支出ノ稟請アリタル場合又ハ當時豫メ稟請ノ暇ナク事後ニ於テ追認ヲ求ムル場合ニ於テモ之カ支給ヲ見ル様致シ度ク尙各領事ニ於テ前顯日米兩國人親睦ノ催シニ對シ臨機財的補助ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ支給シ得ル様各館ニ一定ノ啓發費又ハ機密金ヲ振當置クコト緊要ト認ムルカ其ノ額ハ必スシモ多キヲ要セサルナリ

(三) 地方輿論ノ指導啓發上竝ニ排日對策ノ一トシテ各地日本人會及類似團體ノ内容ヲ充實セシムヘキ具体案
日本人會其他ノ邦人團體ノ内容ヲ充實スルハ單ニ地方輿論ノ指導啓發上竝ニ排日對策上ノミナラス他ノ目的ヨリ云フモ亦緊要ナル處近年各地日本人會其他ノ邦人團體ハ新會員ノ募集、滯納會費ノ徵收等ニ關シ不斷ノ努力ヲ試ミツアルモ主トシテ第一世ノ數次第二減少シツアルト團體ニ加入スルモ實益比較的僅少ナル爲

亘リ最早餘ストコロ殆トナキニ至リタル處第一世定着以來多年ヲ經過シ其ノ間在留邦人ノ性質特徵等漸ク米人間ニ周知セラルルニ至リタルコト、更ニ最近第二世ノ數次第二増加シ各地米人トノ接觸著シク圓滿親密ノ度ヲ加フルニ至リタルコト等ノ理由ニ依リ近年ニ於テハ組織的排日殆ント其ノ跡ヲ絶チ各地在住日米兩國民ノ關係圓滑ナルモノアリ偶々日米人接觸ノ渺ナキ小數ノ地方ニ在リテ時々排日ノ擡頭スルモノアルモ概シテ氣勢揚ラス州議會等ニ提出セラルル排日法案モ亦提案者ニ於テ飽迄成立セシメントスル底意ナク從テ比較的容易ニ之カ通過阻止ヲ實現シ得ル實情ニシテ事態排日旺ナリシ昔日ニ比シ誠ニ隔世ノ感アリ

排日對策トシテハ前記事實ヲ充分ニ認識シ將來益々各地在住ノ日米兩國人ノ親善關係ヲ増進セシメ以テ排日氣運ノ擡頭ヲ防遏スルト同時ニ若シ不幸ニシテ排日運動ノ開始或ハ排日法案ノ議會提出ヲ見タル際ハ直接間接地方日本人會、日系市民諸團體及親日有力米人等ヲ指導シテ右運動ノ終熄又ハ同法案ノ通過阻止ニ關シ有效適切ナル途ヲ講スルコト肝要ナリ而シテ前掲對策ノ

其ノ成績充分擧ラス佛教會ヲ除キテハ財政的ニモ頗ル貧弱ナル狀況ナリ

從テ財政的竝ニ社會的内容ノ改善ヲ之等諸團體ニ期待スルモ右ハ既ニ第一世凋落ノ途ニ在ル今日事實不可能ナリト云フヘキナリ、去リトテ外部ヨリ之ニ對シ繼續的ニ財的補助ヲ與ヘントスレハ其ノ團體多數ニ上ル關係上補助金多額ニ上リ事實上實現不可能ナルノミナラス右ハ屢々團體ノ依頼心ヲ増サシムル等諸種ノ弊害ヲ伴ヒ結果面白カラス、惟フニ地方輿論ノ指導啓發上竝ニ排日對策ノ一トシテ今日ニ於テハ第一世ノ團體ニ加ヘ第二世ノ諸團體ヲモ重要視セサルヘカラサル事態ニ到達シ居ル様認メラルル處之等第二世諸團體ハ其ノ會員ノ年齡末タ若ク財政的ニモ社會的ニモ目下發達ノ途上ニ在リ領事館ニ於テ之等團體ト密接ノ關係ヲ保持シ其ノ伸展ヲ助成スルハ固ヨリ緊要ナルモ之ニ對シ繼續的ニ財的補助ヲ與フルカ如キハ其ノ事實外部ニ遺漏シ排日家ニ利用セラルルノ惧多分ニ存スルノミナラス往々青年ノ獨立自尊心、向上心ヲ毀損シ面白カラスト認メラル

之ヲ以テ各地日本人會及類似ノ團體ハ將來モ引續キ之ヲ善導シ其ノ急激ナル凋落ノ阻止ニ努ムルト同時ニ領事ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨機之ニ財的援助ヲモ與ヘ得ルコトトシ更ニ第二世諸團體トハ緊密ナル關係ヲ保持シ以テ之カ健全ナル伸展ヲ助長シ之ニ對シテモ亦領事ニ於テ必要ト認ムル場合ハ臨機財的援助ヲ與ヘ得ル様致シ度ク之カ爲メ各館ニ一定ノ經費ヲ振當テラレタシ

(四)日米協會等米人團體ヲ指導シテ啓發事業ノ效果ヲ擧クヘキ具体的方法

各地ニ現在スル日米協會中財的基礎ノ鞏固ナルハ紐育ノミニシテ他ハ概シテ資金充分ナラス又會員ノ素質必スシモ満足ナリト云フヲ得ス、其ノ活動振ニ付テハ各地協會共大体訪米日本人名士ノ歡迎、年次大會ノ開催、日本ニ關スル「パンフレット」ノ配付等ニ止マリ充分ナラサルモ協會ノ性質上政治問題ニ關與スルコトヲ喜ハサルヲ以テ文化的、社交的方面ニ限定スルコト止ムヲ得サルヘシ、又領事館カ表ニ立ツコト不適當ナル文化宣傳等ニ付テハ出來得レハ日米協會等ヲ利用ス

「シアトル」領事館ヨリ

Henry Cotkins

「ニューオールレアンス」領事館ヨリ

Dr. Townsend

大使館及市俄古領事館ヨリ

Dr. Brooks Emney

「ポートランド」領事館ヨリ

David Wilson

Sterling Green

等ノ名出テタリ

右ニ關スル指導方針ニ付テハ各館夫々ノ事情モアリ各別ニ關係公館ヨリ適宜本省ニ具申スルコトトス

(六)其他地方輿論ノ指導啓發ニ關シ參考トナルヘキ事項

對米啓發上米國ヲ東部、中部竝西部ニ分割スル案ハ各地ノ事情異ルノミナラス人的接觸ヲ必要トスル次第ニテモアリ廣汎ナル區域ヲ受持ツコトハ考物ニシテ寧ロ各館夫々管轄地方ノ啓發ニ當ルコトトシ只出來ル丈各館相互ノ間ニ情報ヲ交換シ參考ニ供スルコト可然尙布哇ニ付テハ從來對米啓發上動モスレハ無視セラレ勝チナルモ對日、對米本土關係上重要ナルヲ以テ啓發施設ノ必要ヲ認ム

其他紐育同盟支局ノ人員經費ノ充實、對米放送ノ紐育ヘノ擴張、日本宣傳雜誌(例ヘハ ASIA ノ如キ)ノ發

ルコト望マシク之カ爲メニハ時ニ領事館等ニ於テ財的援助ヲ與フルコト必要ナルヘシ

尙文化振興會方面ト連絡ヲ保ツコトモ肝要ナルヘシ

(五)米國ニ於ケル輿論啓發ニ當ルヘキ本邦關係ノ新聞記者、雜誌記者、著作家、講演家等ノ中少壯有爲ニシテ將來見込アルモノニ關シ各館持寄りノ情報ヲ交換セル處

紐育總領事館ヨリ

Fisher(「タイムス」記者)

香港總領事館ヨリ

Thompson(Foreign Editor : San Francisco News)

Newton Bell(講演者、數回本邦、滿洲國ヲ視察シタルコトアリ各地ニ於テ日本ノ爲メ進ンテ講演ス)

Ralph Townsend(「Ways that are dark」ノ著者、著述家ニシテ曾テ日本ノ「Foreign Affairs」ニ寄稿シタルコトアリ)

行又ハ買収等モ對米啓發上必要ト認ム

(七)「特情」電信制度ノ運用及改善ニ關スル意見

「特情」カ「新聞發表」ト「本省ニ對スル報告」トノ兩立セサル二面ノ作用ヲ行ヒ居ル以上完全ナル成績ヲ擧クルヲ得サルコト當然ニシテ現在紐育總領事館ニ於テモ運用上不便ヲ感スル所尠カラス從テ「特情」ヲ何レカ一方ノ作用ニ限定スレハ兎モ角然ラサル限り容易ニ改善ノ方法ナキモノト認ム

華府ニ於テ「特情」ヲ開始シタル場合ハ紐育ノ「特情」ハ之ヲ廢止スルヲ適當トシ兩者ニテ行フノ要ヲ認メス、桑港ニテ開始スル件モ同地方ノ新聞ノ價值ニ顧ミ其ノ要ヲ認メス、右ハ從來通リ同地總領事ヲシテ必要ノ報告ヲナサシムル程度ニテ十分ト認ム

ニ、在留邦人保護指導關係

(一)在米邦語學校改善ニ關スル具体案

(イ)在米邦語學校亂立ノ弊ハ程度ノ差異ハアルモ各地共通ノ事情ニテ之カ併合整理ノ要緊切ナルモノアリト認メラルルモ其ノ實行ノ時期、方法其他ニ付テハ各地ノ事情ニ依リ緩急宜シキヲ得ルヲ要ス

(c)教員素質並教授法ノ改善等ノ爲メニハ(i)恩給類似制度並表彰等ニヨル待遇ノ改善(c)教員ノ養成(i)講習會ノ開催(ii)教員ノ本邦見學(b)圖書館ノ充實、(v)使用教科書ノ改編等ヲ急務ト認ム

(i)敘上ノ諸項ハ結局政府ノ精神的並財政的援助ヲ受クルニ非サレハ之カ達成困難ト認メラルルニ付可成目立サル方法ニ於テ右援助ヲ與フル様致シ度シ、尤モ右實行ニハ各地特殊ノ事情モ有之ニ付既ニ各館ヨリ具申ノ報告ヲ充分考量ニ容レラルル様致度シ

(二)在米邦人(第二世ヲ含ム)ノ社會的地位ノ向上施設ニ關スル具体案

在米邦人ノ社會的地位ノ向上ニ關シテハ差當リ第二世ヲ目標トシテ之カ施設ヲ行フコト適當ト認メラルル處之ニ付テハ(i)二世指導者ノ養成(ii)二世及米人間ノ接觸援助(iii)二世經營新聞ヘノ援助其他各般ノ施設アルヘク之等ニ關シテハ既ニ各公館ヨリ稟申濟ミナル處各地ニ共通シ而モ最も有效ナル方策ハ有力二世團體ヲ擴充シ右中心團體ヲシテ萬般ノ工作ニ當ラシムルト共ニ其ノ有スル選舉權ヲ利用シ米人社會ニ於ケル地歩ヲ確立セ

三 通商貿易關係

(一)日米通商關係ノ調整ニ關スル對策

米國大統領ハ互惠通商協定締結權ヲ有スルヲ以テ米國側ニ協定ノ意思アルニ於テハ日米間ニ通商協定成立ノ可能性存スルモ米國トシテハ對日貿易關係カ輸出超過ノ現狀ニアルコト並ニ對日輸出品カ日本工業ノ必需原料品ナル爲メ日本カ之等商品ノ輸入ヲ削減スルコト少クトモ玆數年ニハ實現シ得サルコト等ノ實情ヲ知悉シ居ルニ付結局米國側ヨリ日本側カ受諾ノ可能性アル協定ヲ提唱スルカ如キコトハ萬ナカルヘキノミナラス如何ナル内容ニテモ一旦日米通商協定締結ノ上ハ本邦品ハ互惠通商法第二條a項ニ依リ關稅法第三百三十六條及第五百十六條b項ノ適用ヲ受ケサルコトナル關係上協定ノ締結ニ對シテハ競争日本品ノ輸入防遏ノ常套手段トシテ伸縮條項ノ適用並ニ稅番變更方ヲ申請スル米國製造業者ヨリノ反對激烈ヲ極ムヘク殊ニ今秋大統領選舉ヲ控ヘ居ル今日米國側ヨリ互惠通商協定締結提議ノ可能性ハ殆ント皆無ナリト見ラル旁假リニ日本ヨリ互惠協定ノ締結ヲ提議スルモ我ニハ米國側ヲ協定妥

シムルコトニ在リト認メラル

尤モ之ニ付テモ地方ニ依リ多少異リタル事情アル次第ハ既ニ各公館ヨリ報告濟ノ通りナリ

尙在留民及二世ノ現狀ヲ以テシテハ自力ニ依ル右實行ハ至難ナルヲ以テ自立ノ時期至ル迄一時政府ニ於テ之ニ相當ノ財的援助ヲ與フル要アリト認メラル而シテ右補助ハ米國側トノ關係モアリ一般ニ知レ渡ルカ如キコトハ最も不得策ナルニ付所謂補助金ノ形トセス右目的ノ爲ニ使用シ得ル機密金ノ形式ニ於テ各館ニ交付セラ

ルルコトヲ適當ト認ム

在米邦人老廢困窮者救濟等ノ問題ニ付テハ今回ノ領事會議ノ議題トシテモ審議セラレタルニ付同會議議事録ヲ參照セラレタキモ要之養老院ノ設置(米國內又ハ内地ニ)或ハ日本人會其他ノ團體ニ依ル救濟等ニ關シテハ各地ノ事情異ル爲メ現在ニ於テハ各々其ノ適切ナル方法ト認ムルモノニヨリ適宜保護又ハ救濟ヲ行ヒ居ル實情ニシテ從テ各地ニ共通スル具体案ヲ發見シ難キモ差當リ政府トシテハ現在ノ諸施設ヲ援助助長セラルルコト可然

結ニ誘致スヘキ有力ナル材料ヲ有セス加之今秋選舉ノ結果ハ逆睹シ難キモ假令「ローズヴェルト」カ再選セラルルトスルモ議會ハ共和黨員ノ増加ヲ豫想セラルルヲ以テ關稅問題ハ今日ヨリモ複雑且日本ニ不利ナル狀勢ヲ齎スノ可能性多キニ付結局此際ハ左記ノ「日米貿易改善對策」ニヨリ漸次調整策ヲ進ムルニ努ムルノ外ナシト思考セラル

左記

日米貿易改善策

商取引ノ改善ト商品ノ改良若ハ創造ノ二策ニ歸スヘキモ當分ハ無競争品ノ薄利多賣ト競争品ノ多利薄賣ヲ試ムルコト可ナルヘシ右ハ不合理ナルカ如キモ米國ニ於ケル特殊ナル市場ノ情勢並ニ本邦當業者ノ無謀ナル競争等ヲ考慮シ更ニ之ヲ具體的ニ列記スレハ左ノ如シ

(一)生糸ニ付キテハ人絹ノ競争ニ對抗スル爲メ生糸ノ宣傳費ヲ増加シ當地ニ於ケル消費増加ヲ計ルコト、同時ニ本邦ニ於テハ生産制限ヲ或ル程度ニ止メ専ラ生糸生産費低下ニ意ヲ注キ合理化等ニヨリ農家及製糸家カ立行ク範圍ニテ増産ヲ行ヒ安ク多量ニ輸出シ世

界殊ニ米國ニ於テ新用途ヲ開拓スルコト

(二) 生糸以外ノ輸出品ニシテ米國ニ生産ナキモノ又ハ米國生産不十分ナルモノモ生糸ノ例ニ準シ生産費低減及生産増加ヲ計リ採算點ニテ多量ニ賣捌クコト

(三) 米國品ト競争ニナルモノニ付テハ從來ノ取引方法ノ改善又ハ本邦當業者ノ統制ニヨリ能フ限り利益ヲ擧クル爲量ヨリモ實ヲ本位トシ金額收入ノ増進ヲ計ルコト、之カ爲メニハ一時的ニハ窮屈ナル自制モ敢テ辭セサルノ覺悟ヲ養フコト、又眞ニ我國益ヲ思ハサル外商(猶太系)ノ如キニ對シテハ警戒シ寧ろ高ク賣ル様邦商同志ノ團結ヲ一層鞏固ナラシムルコト

(四) 雜貨ニ付テハ米國當業者ノ日本品ニ對スル恐怖心ヲ除去スル爲メ從來ノ歐米品模倣一點張りヲ廢シ且我國特有ノ技能ヲ發揮スルト共ニ米國人ノ嗜好ニ適スル様商品ノ國際化及創造ヲ計リ高級ナル工藝品又ハ機械ノ部分品發明品等ニ依リ從來ノ安物以外ノ販路ヲ開拓スルコト、之カ爲メニハ差當リ官民協力ノ上商品研究所ノ如キ施設ニ全力ヲ注クコト

(五) 輸入品ニ付テハ詳ニ研究ノ上自給ノ見込アルモノニ

尙今日迄日米通商問題頻出スルニ至レル一基因トシテ圖爲替下落ヲ擧ケ得ル處之カ適當ナル調整策ニ付テハ慎重考慮スルノ要アリ右ニ關シテハ爾餘ノ諸般ノ事情ニモ鑑ミ在外財務官其他大藏當局ノ意見ヲ徵スルコト至當ト認メラルルニ付茲ニハ之ニ論及セサルコトトセリ

(二) 日米通商ニ關スル啓發事項

一般消費者ハ廉價品ヲ歡迎シ居ル實情ニ鑑ミ別段本邦品ヲ敵視シ居ラス從テ消費者側トシテハ關稅引下ヲ希望スルモノナルカ團結ナキ爲メ斯ル宣傳ヲ爲スコトナク又本邦對米貿易ノ入超ヲ知ラサル爲メ寧ろ勞働者保護、失業防止等ノ「スローガン」ヲ提唱スル政治家ニ誘導セラレ勝チナル實情ナリ仍テ之等大眾ニ向テ對抗宣傳ヲ行フハ莫大ナル費用ヲ要スルノミナラス假令運動力ナキ彼等ヲ說服シ得ルモ背後ニ在ル政治家及其ノ後ニアル米國製造家ノ強力ナル輸入防壓運動アル限り殆ント勞シテ效ナキ次第ナリ

(A) 日本品排斥派ノ關稅引上運動ノ勢力ヲ大別シ夫々之ニ對スル方策ヲ略記スレハ左ノ如シ

對シテハ直ニ自足ノ方法ヲ講スルモ其ノ準備カ充分ニ完了スル迄ハ沈黙ヲ守リ我輸出品カ相手國ヨリ輸入制限ヲ受クルカ如キ場合ニハ一種ノ報復ノ意味ニテ自給ノ自信成リタル輸入品ニ適當ノ制限ヲ加ヘ得ル様ニ劃策シ以テ互惠ノ實ヲ具體的ニ擧ケ得ル用意ヲスルコト

(六) 日米貿易ノ大部分ハ紐育ニ於テ取引セラレ又日本品ニ對スル米國製造家ノ輸入防遏運動ハ華府及紐育ヲ中心トシテ行ハルル爲メ本邦側ノ對抗運動ハ今日迄在華府大使館及米國當局トノ連絡乃至接觸ニ便利ナル在紐育商務官事務所ヲ通シ在紐育關係本邦輸入商組合ト協力實行セラレツツアルカ商務官事務所ハ極端ナル手不足ノ狀態ニ在リテ充分ニ行届カサル惧アルニ付差當リ之カ擴充ヲ計ルコト急務ナリ

(七) 問題トナルヘキ雜貨中ニハ外商(主トシテ猶太系)ノミノ取扱ニ係リ在紐育邦商ノ關係セサルモノ相當多數アルヲ以テ今後本邦ニ於テ對米輸出雜貨聯合會ノ如キモノヲ組織シ之カ代表者ヲ紐育ニ駐在セシメ商務官事務所ト連絡協力セシムルコト必要ナルヘシ

(イ) 米國製造家中本邦品ト競争ニアルモノ殊ニ常ニ獨占ヲ計ル「トラスト」派ニ對シテハ(a)當分我方ノ統制ニ依リ可及的激甚ナル競争ヲ避ケルコト(陶磁器、鉛筆、綿布ノ例)(b)日米會商ニ依リ妥協ヲ計ルコト(鮪罐詰、燐寸、電球ノ例)(c)飽ク迄官民協力シテ米國側トノ對抗ニ努ムルコト(生糸ノ例)等ノ諸對策ヲ有利ニ導ク爲メ可然兩國當業者ノ啓發ニ重點ヲ置クコト肝要ナリ

(ロ) 新聞、雜誌等ニハ紐育「タイムズ」ノ如キ公平ナルモノアルモ多クハ製造家ヨリ廣告費ヲ貰フ關係上又ハ製造家ノ支持スル政治家ノ策動ニ依リ兎角日本品ヲ排斥スルノ風アリ仍テ之ニ對シテハ面白キ記事ヲ供給ノ上側面ヨリ日本品カ一般公衆ノ福祉ニ貢獻シ居ルコトヲ周知セシムルト共ニ米國製造家ノ獨占ヲ排撃スル様仕向クルコト肝要ナリ尙出先ニテハ新聞記者ト親交ヲ結フト共ニ本邦側ニ於テハ之ニ供給スヘキ材料ヲ豊富ニ用意スル通商宣傳部ヲ設ケル必要アリ

(ハ) 米國政治家ハ地方勢力家殊ニ產業家ニ引摺ラレ彼

等ノ爲メニ關稅引上ヲ唱ヘ同時ニ之ニヨリ國家主義的傾向ニ走ル一般公衆ニ受ケノヨキ勞働者保護、失業防止ヲ計ルカ如ク説明シ選舉戰ヲ有利ニ導クモノナルカ特ニ日本品ニ對シ攻撃ヲ加フルハ最近進出セル日本品カ一般公衆ト關係深キ廉價ナルコト及日本人カ政治的ニ勢力ナキ爲メ幾何之ヲ敵視シテモ害ナキコトヲ知レルカ故ナリ仍テ之等政治家ニ對シテハ勢力家ヲ通シテ説服シ得ル様前記新聞記者ニ對スルト同様出先ノ親交及宣傳等ノ方法ヲ以テ進ムノ外ナカルヘシ

(B)以上ハ日本品排斥派ナルカ米國ニハ又自由派ト稱スヘキモノ及外國貿易助長ヲ唱ヘ「賣ラントスレハ買ハサルヘカラス」トノ主義ヲ唱フルモノ尠カラス各之ニ對スル方策ヲ略記スレハ左ノ如シ

(I)一部ノ大學教授其他著作家、講演家等ニシテ自由主義ヲ信スルモノハ國家主義者ノ輸入防壓ノ反對ニ努メ居ルモ之等ハ政治的ニハ日本ニ反對ノモノ尠カラス從テ此種人士ニ對シ經濟問題トシテ適當ナル材料ヲ與ヘ善導スレハ一舉兩得ナリ但シ之ヲ

(一)米國本土及布哇行布教師ノ渡航取締

本件ニ付テハ晚香坡ニ於テモ略布哇同様ノ事情アリ又沿岸各館管内ニ於テモ布教師ノ數ハ飽滿狀態ニ在リテ各種名目ニテ在留民ヨリ募集スル寄附金多キニ過クトノ非難アリ、各館共現在以上ニ布教師ノ數ヲ増加スルコトハ邦人ノ指導上其他ニ好マシカラサルモノト思料セラルルニ付今後ハ後任者補充等ノ場合ニ限り渡航ヲ許スコトトシ更ニ布教師ノ多數ハ邦語教師ヲ兼ヌル實情等ニ鑑ミ渡航後邦語教育ニ從事セムトスル者ニハ之カ適否ニ付一應ノ調査ヲ遂クルコトト致度シ

三、事務聯絡關係

(一)從來在米各公館ヨリ本省ニ經伺シ其ノ回報ヲ俟チテ處理スヘキ事項ニ對シ往々何等回答ナク握潰ノ場合アリ從テ本省ノ意嚮不明ニシテ執務上不便ヲ感スルコト尠カラサルニ付今後經伺ノ件ニ關シテハ何分ノ儀必ス同訓セラルル様致シ度シ

(二)在米各公館間ニハ互ニ必要ナル公信及電報ノ交換ニヨリ聯絡ヲ計リ居ル處今後事情ノ許ス限り之ヲ一層頻繁ナラシメ轉電ハ能フ限り解讀前之ヲ行ヒ轉報ハ空送利

一般ニ公表シ有效ナラシムルニハ相當ノ資金ヲ用意セサルヘカラス

(C)米國政府當局ハ大體國務長官及商務長官ノ自由主義ヲ基礎トシタル政策ニ依リ貿易助長ノ目的ヲ以テ關稅引下ヲ主張シ Foreign Trade Week ノ如キ宣傳ヲ行フ等種々ノ努力ヲ爲シツツアリ、日本品ニ對シテモ相當ノ理解アルハ關稅委員會ノ報告ニ徴スルモ明カナリ

故ニ彼等ト接觸シテ Foreign Trade Week ノ如キ宣傳ヲ利用シテ本邦ノ立場ヲ一般ニ周知セシムルコト肝要ナリ之ニハ適當ノ材料ト接觸ノ任ニ當ルヘキ商務官ノ如キモノヲ増加スルノ要アリ

(D)米國貿易業者團體ハ勿論貿易増進ノ爲メ關稅引下運動ヲ主張スルモノナルカ之ニ對シ我カ當業者モ參加シ居ルモ今一層之カ後援ヲ惜シマサル様ニ努メ特別ノ宣傳等ニ費用ヲ補助スルコト必要ナル場合ニハ本邦關係團體ヨリモ出資スルノ用意アリタシ

四、旅券事務關係

用ニ依リ迅速ヲ期スルコトト致シ度シ

(一)排日事件其他突發事件ノ發生ニヨリ甲館及乙館間ニ至急聯絡ノ必要アリ電報等ニヨリ充分打合せ難キ場合ニハ豫メ稟請ヲ爲サシテ出張スルコトアルモ之ヲ追認セラレ度シ

(二)今回領事會議ハ各館ノ事務聯絡及打合上頗ル有益ナルモノアリシコト認メラレタルニ付今後モ隔年位ニ華府及桑港兩地ニテ順次會議ヲ開催スル様致シ度シ

六、日米領事職務條約關係

本件ニ關シ領事會議ニ於テ一致ヲ見タル意見及希望ハ電報ヲ以テ申進ノ通りナリ尙會議ニ於ケル審議ノ模様ニ付テハ領事會議議事錄ヲ御參照相成度シ

七、文化事業關係

(一)本邦事情紹介ヲ目的トスル文化工作ノ爲メ特ニ米國ノ地域ヲ區分シ中心地ヲ選定スル必要ヲ認メサルモ將來若シ中心地ヲ選定スルコトアル場合ニハ領事館所在地ヲ選フコト適當ナリ

有效適切ナル文化工作ニ付テハ領事會議ノ期日短カキ關係モアリ之カ詳細ニ亘リ審議スル暇無カリシカ大體

從來實行又ハ計畫シ來レル方法ヲ全米ニ行ヒ差支無し
 (二)日米國交ノ改善増進ニ付我國情ヲ米人ニ知ラシムルノ
 緊要ナルハ言フ俟タス從テ本件實現ハ極メテ望マシキ
 コトニシテ現ニ華州大學ハ第二世異教授ニヨリ日本語
 ヲ教授シツツアリ、約二十名ノ學生アリ(主トシテ第
 二世ナルモ)羅府、桑港、布哇、紐育等ノ各大學ニ日
 本文文化講座ノ設ケアルハ周知ノ事實ナリ、今後ハ獨リ
 大學ノミナラス「ハイスクール」ニモ日本語乃至日本
 文化講座新設ノ氣運醸成ニ努ムルコト可然唯意ヲ須ヒ
 テ嫉視反感ヲ助長セサル様注意ヲ要ス又同時ニ本省ニ
 於テモ國際文化振興會トモ協力ノ上所有機會ニ我文化
 特ニ古來ノ文化及之ニ基ク國情及國民精神ニ付對外啓
 發ヲ行ヒ交換教授ノ需メニ應スルハ勿論進ンテ原田博
 士ノ如キ有能ナル學者等ヲ派遣セラレ度シ
 (三)國際文化振興會等ノ對米文化工作ノ成果及反響
 本件ニ付テハ各館ヨリ各地ノ事情ニ付更メテ報告ヲ提
 出スルコトト致スヘシ
 (四)日米外交關係ヨリ見タル我方ノ對米文化宣揚事業ノ意
 義竝ニ效果

貴電第一五〇號ニ關シ
 汎米會議ニ附議セラルル議題ハ「パン、アメリカン、ユニ
 オン」ニ於テ七月初旬各國ノ意見ヲ取纏ノ上決定スル筈ニ
 テ目下右「パン、アメリカン、ユニオン」内ニ設置セラレ
 タル準備委員會(亞爾然丁、墨西哥及「グアテマラ」各中
 米代表者ヨリ成ル)ハ之カ準備ヲ進メツツアル處國務省ト
 シテハ現在ハ總テノ仕事ヲ「パン、アメリカン、ユニオ
 ン」ニ任セ居ル模様ニテ別段之ニ干渉シ居ル形跡ナシ尙
 「パン、アメリカン、ユニオン」ハ五月十九日前顯委員會
 作成ノ議題成案(六月二十三日附機密公第四二一號參照)ヲ
 各國ニ送付シ其ノ意見ヲ求メツツアル趣ナルカ右ノ内ニハ
 秘露發閣下宛電報第七二號ニ該當スト認メラルモノアル
 モ同時ニ羅典亞米利加諸國カ米國ノ干渉ヲ妨ケントスル趣
 旨ノ提案モ含マレ居ル次第ナリ從テ會議カ如何ナル方向ニ
 發展スルヤ必スシモ豫斷シ難キモ要スルニ本會議ハ米國大
 統領ノ善隣政策ノ一ノ企トシテ羅典亞米利加諸國間ノ軋轢
 ヲ除キ其ノ米國ニ對スル反感ヲ和クル等ノ爲相互ノ了解ヲ
 深メ交通ヲ頻繁ニシ法制ヲ統一スルコト等ヲ目的トスルモ
 ノト觀ルヲ至當トスヘク本會議ヲ利用シ米國カ中南米諸國

日本カ特殊ノ文化ヲ有シ米人トハ風俗習慣ハ之ヲ異ニ
 スルモ生活様式高ク教育普及シ居リ所謂武士道精神ハ
 Sportsmanshipニ似テ一段崇高ナルモノアリ、國民
 性ノ高潔ナルハ白人ニ比シ優ル所以ヲ徹底セシムルコ
 トハ聽テ我對外交政策ニ關スル疑惑憎惡ノ念ヲ除去スル
 ニ效果尠カラス即チ我文化宣揚ハ一般文化的ノ立場以
 外外交關係上ヨリスルモ大ナル意義アリ適切ナル施設
 ヲナスノ要ヲ認ムル所以ナリ
 目下行ハレツツアル我文化宣傳ノ程度ハ極メテ微々タ
 ルモノニシテ一層擴充強化ノ要アリ

147

昭和11年6月23日

在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

特別汎米會議は米國大統領の善隣政策の二つ
 と見るべきであり当面は靜觀の態度をとる旨
 報告について

ワシントン 6月23日後発

本 省 6月24日前着

第二六四號

ノ本邦ニ對スル感情疎隔ヲ企ツルカ如キコトアルヘシト爲
 スハ稍思過ノ感アルヤニ存セラル
 右ハ何レニスルモ議題モ又之ニ對スル各國ノ態度モ未確定
 ノ今日我方ヨリ驕立ツルカ如キハ策ノ得タルモノニアラサ
 ルヘク從テ目下ノ所ハ關係各方面ト接觸ヲ保チツツ事態ヲ
 靜觀スル(コトト)致度シ
 全米各大公使ニ轉電セリ

148

昭和11年7月20日

有田外務大臣より
在米國齋藤大使宛

移民法上の「商人」が一時帰国後再入米する際
 に必要な資格証明書の下付手続き等について
 調査方訓令

米三普通一六一號

昭和拾壹年七月二十日

外務大臣 有田 八郎

在米國

特命全權大使 齋藤 博殿

米國移民法上ノ條約商人ニ關スル解釋ノ件

本件ニ關シ五月二十八日附普通公第三九一號貴信ヲ以テ委曲御回報ノ趣了承右貴信本文末段ニ依レハ邦人「パーマネント、レジデント」ニシテ條約商人トシテ再入米希望ノ者ハ其離米前米國政府ニ「リエントリ、パーミット」ノ下付申請ヲ爲ス際之ト同時ニ條約商人トシテノ資格証明書ノ下付ヲ米國出帆豫定日ヨリ六十日以前ニ出願スルニ於テハ法定ノ條件ヲ具備スル限り右資格ヲ認メラレ同証明書ヲ下付セラルヘキ旨移民資格審査委員ノ一人ニ於テ述ヘタル趣ノ處右ハ頗ル良法ナル様思料セラレ條約商人トシテ再入米希望ノ者ニハ右方法ニ依リ前記証明書ノ下付ヲ出願セシムルコトト致度ニ付右出願ニ要スル願書ノ様式及出願方法等御査報相成度又貴信本文中段ニ於テ條約商人ノ解釋ニ關スル米國政府ノ一定基準ニ付テハ移民資格審査委員ノ一人ハ我方ヨリ公文ヲ以テ照會スル場合ニハ米國労働省トシテハ現行法律ノ定ムル所ニ依リ總テ之ヲ律スヘキ旨ヲ述ヘ現行移民法規ヲ「リファア」スルヨリ外方法ナシト思考スル旨述ヘタル趣ナル處労働省ニ於テ「リファア」スルコトトナルヘキ現行法規ノ條文ヲモ承知致度ニ付右併セテ可然御取調ノ上御回報相成度此段申進ス

本信寫送付先 在米本土及「ホノルル」各總領事、領事
昭和11年7月23日 在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛
149
今期米國議會の審議概要および大統領選に向けた米国内の政情に関する観測について
普通公第五〇六號 (8月14日接受)
昭和十一年七月二十三日 在米
特命全權大使 齋藤 博(印)
外務大臣 有田 八郎殿
第七十四議會第二會期ノ實績及米國政情ニ關スル報告ノ件
一、第七十四議會第二會期ハ本年一月三日ヨリ六月二十日迄約五ヶ月ノ期間ヲ以テ終了セルカ其ノ業績ヲ見ルニ兩院共民主黨ノ絶對多數ナルニ加ヘ退役軍人恩給法、農村救済、失業救済及銀問題等ニ關シテハ共通ノ利害アル爲共和黨内ニモ民主黨ト提携スルモノアリテ結局大ナル波瀾モナク重要法案ハ一二ヲ除キ悉ク議會ヲ通過セリ

ニ右重要法案ノ多クハ報告済ニシテ未報告ノモノハ追報スヘキ處別添議會「ファイナル、カレンダー」最終頁ニ列舉セラレ居ルモノノ中重要ト目サルモノ左ノ通り

- 1. Act for immediate Bonus Payment
- 1. Soil Conservation Act
- 1. Revenue Act of 1936
- 1. Emergency Relief Appropriation Act of 1937
- 1. Direct Ship Subsidy Act
- 1. Army and Navy Appropriation Acts
- 1. Omnibus Flood Control Act
- 1. Rural Electrification Act
- 1. Strengthened Neutrality Resolution
- 1. Commodity Exchange Act
- 1. Price Discrimination Act
- 1. Government Contracts Acts

三、今議會ノ大勢ヲ概觀スルニ一九三四年末頃ヨリ「ニューデイル」ノ缺陷次第ニ現ハルト共ニ往年ノ苦境時代ヲ漸ク忘レカケタル一般大衆ハ冷靜ニ之カ批判ヲ初ムルニ至リタルカ客年五月NIRA違憲判決ニ續キ本年一月

AAAニ對シ同様ノ判決下リ遂ニ「ニューデイル」モ其ノ兩翼ヲ挽カルノ状態トナリ從テ其後ハ大体「ニューデイル」ノ整理時代ニ入レリト見ルヲ得ヘク政府ハ大審院ニ依リ覆サレタル政策ノ彌縫ニ汲々タル有様ナルカ今議會ニ於テモ右傾向特ニ顯著ナルモノアリ尤モ本年ハ大統領選舉ノ關係アル爲同時ニ選舉民ノ歡心ヲ買ハントスル目的ニ出テタルカ如キ法案モ少カラス例ヘハAAA代案ノ作成及失業救済費ノ通過ノ如キハ農村及労働者方面ノ意嚮ヲ考慮ニ入レタルモノニシテ又「ガーフキ」石炭統制法ノ價格取極條項ヲ中心トスル代案ハ審議未了トナリタルカ炭坑労働者ヲ目的トシテ提案サレタルモノト見ラレ居レリ

四、翻テ議會終了後ノ現在ニ於ケル今秋選舉ノ形勢ヲ豫想スルニ右ハ主トシテ一般大衆ノ「ニューデイル」ニ對スル贊否ニ依リ決セラルヘキ處民主黨トシテハ既ニ「ニューデイル」ノ使命ハ略々果サレタルモノトシテ「ローズヴェルト」再選ノ曉ニハ何等カノ新シキ「秩序」ヲ産業統制上ニ齎ラサントスルモノノ如ク客年末新聞紙上ニハ憲法改正ヲ行ヒ大規模ナルNIRAノ再建ヲ期シ居ル

趣スラ傳ヘラレ居リ兎ニ角何等カノ轉換例ヘハ「ニューデイル」ヨリ「ローズヴェルト」ノ所謂「ニューオーダー」ヘノ轉換ノ如キ考慮セラレ居ルコトト察セラル右ハ何レニスルモ今秋ノ選舉ニ於テハ過去四ケ年ノ實績カ大衆ノ判斷ノ基礎トナルヘキ處民主黨トシテハ景氣ノ回復失業救済等ニ於テ相當ノ業績ヲ擧ケタリトハ云ヘ同時ニ大審院ノ違憲判決、NRAノ横暴、其他ノ資本家ノ反感ヲ買ヒタル政策等モ少カラスシテ失政ト目サルルモノ多キノミナラス元來受身ノ立場ニアル不利ハ免レサル次第ナル處之ニ比シ共和黨ハ漸次有利ナル地位ヲ得ツツアリ且新選舉委員長「ハミルトン」ハ少壯有爲ニシテ各地ヲ奔走シ其勢力盛り返シニ努メツツアリ目下ノ處一般ニ民主黨ハ未タ絶對的ニ優勢ナリト目サレ居ルモノ今後形勢ノ推移ニ依リ若シ中西部新英蘭地方カ共和黨ニ傾クカ如キコトアランカ前途必スシモ樂觀シ難キ模様ナリ

尙過般「アメリカ」輿論會(American Institute of Public Opinion)ノ主催ニテ行ヘル投票ニ於テ「ローズヴェルト」及「ランドン」ノ勢力略五角ヲ示シ居レリ(尤モ右輿論會ノ政治的色彩ニハ相當ノ疑問アリ或ハ共和黨側

了セルト政府側ニ於テ所謂「ニューデイル」政策ニ基キ提出シタル各種重要法案乃至各議員カ選舉區ノ關係ヲ顧慮シテ出シタル諸種ノ法案等山積シタル爲移民法關係法案ノ如キハ閉却セラレタル形ニシテ其ノ討議モ從來ニ比シ著シク活氣ヲ缺キ特ニ重要ト認メラルル新規法案ノ提出又ハ通過セラレタルモノナシ別添第一號^(省略)下院移民委員會「フアイナル、カレンダー」ニヨリ御承知ノ通り移民關係法案トシテ提出セラレタルモノノ數ハ相當ニ上リタルモ其ノ殆ント半數ハ個人ノ救済ヲ目的トスル「プライヴェート、ビル」ニシテ之等カ今期ニ特ニ多キ理由ハ各議員カ其ノ選舉區ノ關係ヲ顧慮シタルニヨルモノト認メラル其他ノ「パブリック、ビル」中ニモ議會ヲ通過セルモノハ法律三件決議一件ニ過キス其ノ要旨ハ別添第二號^(省略)當館顧問辯護士「クツク」ノ報告書ニモ記載シアルニ付右ニテ御承知相成度シ尙別添第三號^(省略)トシテ今期提出ノ各法案一括送付スルニ付御査収アリタク尤モ前顯「プライヴェート、ビル」ハ其ノ必要ナキモノト認メ一切省略シ送付セス

要之今期通過ノ法案中稍重要ト認メラルルモノハ別添第二號中ニモ記載シアル「ブルーム」提出ノHR四九〇〇ナル

ニ有利ナル何等カノ工作ヲ施シタルモノナルヤモ知レス)

議會ノ「フアイナル、カレンダー」、今議會業績ニ關スル「ブキヤナン」及「ロビンソン」ノ演説「テキスト」等各一部及「エディトリアル、リサーチ、リポート」三部別添^(省略)ノ通り送付ス

150

昭和11年7月30日

在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛

今期米國議會における移民法關係法案の審議
実績について

機密公第五二一號

(8月28日接受)

昭和十一年七月三十日

在米

特命全權大使 齋藤 博(印)

外務大臣 有田 八郎殿

移民法關係法案送付ノ件

第七四議會第二會期ノ業績ニ付テハ別信ヲ以テ報告済ナルカ右會期ハ今秋選舉ヲ控ヘ其ノ準備ノ爲比較的短期間ニ終

カ之モ邦人ニハ關係ナキ事項ニシテ其他ニモ邦人ニ關係アルヘキ事項ハ一件モ無キ次第ナリ右報告ス

本信寫送付先・在米各領事

151

昭和11年10月21日

在米國齋藤大使より
有田外務大臣宛

移民法上の「商人」の再入米に必要な資格証明
書下付につき中国人と同様の便宜を与えら
るべく國務省と交渉する旨報告について

普通公第六八四號

(11月16日接受)

昭和十一年十月二十一日

在米

特命全權大使 齋藤 博(印)

外務大臣 有田 八郎殿

米國移民法上ノ條約商人ニ關スル解釋ノ件

本件ニ關シ七月二十日附米三普通第一六一號貴信ヲ以テ御來示ノ趣敬承然ルニ本件ハ當方係官ノ聞き違ヒニシテ右資格證明書ノ下付ハ支那人ノミニ對スル特別取扱ヒニ止リ日本人ニ對シテハ斯ル取扱ヲナサレサルコト判明セリ仍ツテ

更ニ其理由ニ付研究シタル處右ハ別添^(別添ハ)“Admission of Chinese into the U.S.”第十七頁後段“a Chinese entitled to return to a section 3(6) and merchant status in the U.S.——may make application in affidavit form——”ノ規定ニ依ル趣ナルモ支那人ニ對シテノミスル取扱ヲナサルヘカラル特別ノ理由ハナキモノノ如ク唯支那人ハ法規上妻子呼寄ニ付他ノ亞細亞人ニ比シ特別ノ待遇ヲ與ヘラレ居ル等ノ關係モアルニ付或ハ之等ノ關係ヨリナサレタルモノナルヤニモ察セラレタリ而シテ館員ヲシテ更ニ當館顧問辯護士「クツク」ニ付キ本件ニ對スル意見ヲ求メシメタル所ニヨレハ同人モ本取扱ヲ支那人ニノミ限ル特別ノ理由ナキニ付當方ヨリ日本人ニ對シ同様取扱方ヲ要求スレハ經費其他ノ技術上ノ關係ニ於テ差支ナキ限り労働省モ之ヲ拒否シ得サルヘシトノ觀察ヲナシタルヲ以テ當館トシテハ尙研究ノ上最近ニ於テ前記資格證明書下付ノ點ニ關シテハ日本人ニモ支那人同様ノ便宜取扱ヲ與ヘラルル様國務省ニ交渉ノ所存ナルニ付右御含置相成度シ

尙貴信末段御來示ノ米國労働省ニ於テ「リフアー」スル現行法規トハ一九二四年米國移民法及國務省發行ノ Admis-

解決委員會設置案ハ握濱シトナリ平和確立上最有效ナリト主張セル自由通商政策ニ付何等條約案ヲ纏メ得ス殊ニ歐洲政局ト密接ノ關係ニアル中立問題ニ付テハ中南米諸國ノ輸出入貿易カ對歐五割、對北米三、三割見當ニテ歐洲トノ利害ヨリ多キヲ示スト共ニ右諸國所有船舶百四十萬噸世界總噸數ノ二分強ヲ占ムルニ過キス而モ大部分ハ沿岸貿易ニ從事スルモノナレハ亞國カ世界大戰ニ遂ニ參加セサリシ例ノ如ク是等諸國ハ北米ノ如ク直ニ歐洲戰爭ニ捲込マルル危險少キ故對歐輸出ヲ阻害スル措置ヲ喜ハサルハ當然ト言フヘシ本問題ハ既報ノ如ク逆轉ヲ示スカ如キ結果トナリ形式的ニハ寧ロ亞國側ノ成功ニ終リタリ

*事項編注

昭和十一年の海軍軍縮問題をめぐる日米關係文書については既刊『日本外交文書 一九三五年ロンドン海軍會議』を併せて参照。

sion of Aliens into the U.S.ヲ指スモノナリ
本信寫送付先 在米各領事(含ホノルル)

152

昭和11年12月24日

在アルゼンチン寺嶋(広文)臨時代理公使より
有田外務大臣宛電報

特別汎米會議の評価報告について

ブエノスアイレス 12月24日後発

本 省 12月25日前着

第二〇八號

往電第二〇六號ニ關シ

(一)會議ニハ北米中心主義、中米其ノ他ノ小國側ノ米大陸主義及亞、伯等大國ノ世界的協調主義トノ三潮流アリ特ニ亞國外相ノ聯盟總會議長、「ノーベル」受賞、英亞通商協定ノ成立ハ亞國ノ對歐關心ヲ露骨ニ表明シ北米トノ抗爭激化ヲ思ハシメタルカ米國ハ「ラデオ」放送ニハ大イニ努メ又實際的、經濟的進出ニハ相當暗躍セリトノ噂アリタルモ會議席上ニ於テハ餘り表面ニ立タス主催地國タル亞國ノ立場ヲ尊重シ各國意見緩和斡旋ニ努メタリ

(二)而シテ會議ノ實績ヨリ見ルニ米國ノ重要視セル常設紛爭

ト言ヒ得ヘシ

(三)會議事項中米洲司法裁判所、米洲聯盟、國籍、移民等法律的技術的ノ問題ハ華府專門委員會ニテ研究ノ上第八回里馬汎米會議ニ提出セラルルコトニ決定ヲ見、祕露ノ國柄モアリ同會議ニ付テハ我方トシテモ相當準備シ置クノ要アリ又今次ノ會議ニ於ケル中米諸國ノ活躍案外見逃シ難カリシニ鑑ミ今後一層諸國トノ近接ヲ圖リ置クコト得策ナリト感セラレタリ

全米各大公使へ暗送セリ